

新たな学校づくり第 1 期：鶴川地域の計画の 1 年の延期を求める請願

現在、今年 4 月に予定されている本町田地域、南成瀬地域では、統合を 1 か月前にして混乱しています。特に、児童の通学について、安全の確保が難しい状況であることは明らかです。特に、児童自身がこの不安を抱えていることは大きな問題ではないでしょうか。通学の理由から、本町田東小学校児童、62 名が統合校ではない藤の台小学校に転校するという計画にない事態も起きています。

また、南成瀬地域では、南第二小学校 312 名、約 300 人近くの児童が、南成瀬小学校に移動通学を 3 年間しますが、安全の見守りなど保護者に丸投げと言わざるえないことを保護者も訴えてきました。

鶴川地域でも 2 キロの通学になる児童が想定されていますが、路線バスの減便、交通渋滞が常態化している通学時間の安全の確保はいまだにできていません。本来であれば、1 年前には、安心して臨めるように計画を行うことが、保護者、児童にとって重要です。現在、全国的にも小学校低学年での不登校児童数が増加。保護者ともに働く世帯も毎年伸びています。学校に安心して通えることは、働く親たちにとって最も大事なことではないでしょうか。まずは、児童が安心して通学できる環境づくりが、重要なインフラです。

この計画を前向きに進めるうえでも必要な措置ではないでしょうか。鶴川地域でいうと、鶴川第一小学校、大蔵小学校が近隣にはあり、それらの学校選択も柔軟に考えることもあり得ます。しかし、あまりに複雑化した鶴川地域の統廃合計画なので、保護者の想定もできていません。2026 年の統合建設に伴う鶴川四小児童の通学距離問題、その後には、鶴川第三小学校近隣エリアの児童は、鶴川四小位置に通学、もしくは鶴川二小の統合建て替えにより鶴川東小学校に転入となる学年がでできます。6 年間の小学校生活で、2 回も学校環境、お友だち環境が大きく変わるというのは、大人が考えても、とても大変なことです。先に、鶴川二小に通うとしても、目の前に学校があるにもかかわらず、隣の小学校に通う。そのことで、学童、お友だち環境が影響されています。ほかの選択肢としては、大蔵小学校に通うことも出てきています。このように、いろんな選択肢を駆使して、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう保護者も必死に考えています。このような情報とていねいな対応をひとりひとりに行うことは、学校任せでは到底できなく、時間がかかることです。

通学に伴うことでは、学校の開門時間を早めることは考えておられるでしょうか。通学の心配からも保護者が送迎をすることは想定できます。通勤前に送ることを考えると、開門と校舎内に早く入れるよう今としくみを変えてもらうことも挙げられます。

また、鶴川の統合時の想定クラス数は 24 クラス、これは町田市の独自基準 18 から 24 クラスとする町田市独自基準中の最高クラス数になります。統廃合されることで教員の数は減り、教員の負担、また目が行き届かないことによる児童の不安も懸念されます。今回、南成瀬地域でおこなわれた子どもたちへのアンケート結果でも、「おともだち関係の不安」が

記されています。巡回のスクールカウンセラーではなく、常駐を強く求めます。そして校内支援クラスをこの計画に当たる学校には必ず設けるなど、子どもたちを守る対策がどれだけとれているのでしょうか。

そして、町田市は人口が微増と増加しています。計画の当初よりも児童が増えているということが起こっています。鶴川地域では、駅の開発に伴い、児童の増加も想定されます。当初より、この鶴川駅の開発が終わり、ある程度の変動を見てから行うことが望ましいのではないかと請願もしました。現在、鶴川では朝の時間帯は渋滞が常態化しています。その結果、路線バスが時間通り来ないことも起きています。駅の開発は、交通渋滞に大きな影響があることから、開発が終わることにより、渋滞も緩和されることも見込めます。

更に近年、工事建設費の高騰がこの計画の当初の想定以上です。公募されている「町田市（仮称）子ども・子育てサポート等複合施設整備等事業」「（仮称）町田木曽山崎パラアリーナ」の工事も不調となり、本町田、南成瀬地域の計画では、当初の1.8倍となり、国からの補助金は1割に満たないという状況です。町田市としても、国に求めていくものと思われませんが、現状では、町田市にとって大きな財政的影響があります。

合意形成についてです。この計画の説明、また話し合いをていねいに進めていくことを求めてきています。これだけの計画であり、最初の第1期をていねいに進めることで、次につながるのではないのでしょうか。1月に文部科学省、こども家庭庁の担当者と面談しました。こども施策に対して国は、子どもたちに意見を聴くこと、そしてフィードバックすることが大事であることを明確に話されていました。今からでも、この計画にかかる児童の声を聴くことをしながら、一緒に進めるように求めます。

先日、第2期以降の計画案が出されましたが、ほとんどが検討会に4年以上をかけます。第1期は、コロナ禍で進めたことにより、十分に、保護者にも情報が行き渡らずに進んでいきました。また、計画を知らずに入学している学年の在学中におこなわれます。児童、保護者の心情に配慮してもらいたいです。

鶴川第三小学校の校歌は、谷川俊太郎さんの校歌があります。この校歌を残してほしいという市民の方々の声も出ています。検討会等、市民と共に谷川俊太郎さん校歌をどのように受け継ぐのか、ぜひ、考えてもらえないでしょうか。

この鶴川地域の第1期には、鶴川第二小学校が2029年に予定されていますが、事実上、南第一小学校と同じく学区変更を伴う校舎建て替えとなります。南第一小学校では、学校名は変わりません。学校名を変えるということは、とても大きな変更となります。また、私たちのアンケートの中にも、「鶴川第二小学校の今の建設計画はお金がかかりすぎるため、やめた方がよい」という回答があります。耐震性に問題はなく、学校内の設備、メンテナン

スなどでそのまま存続してほしい、建て替えに伴う移動通学はたいへんだという保護者の声、避難所問題もあります。本当に今のままの計画でよいのでしょうか。2029年ということは、ほぼ第2期の時期になります。そのことを鑑みても、今、拙速に進めずにいていいに進めた方がよいと思います。

昨年、契約された隈研吾設計事務所の設計校舎についてです。現在、どのような状況にあるのでしょうか。この設計事務所の設計施設が昨年大きな問題となっていました。木材をふんだんに使用、メンテナンスが通常の建物よりもかかることが報じられていましたが、鶴川第四小位置に建てられる新校舎の維持管理費は、どのように考えられているのでしょうか。市民にも知る権利があると思いますが、開示請求できますか。また、町田市の他の学校校舎、建物維持管理費の現状費用と今回の校舎建物の維持管理費は、どのくらいかを開示してもらいたいです。避難施設としても使用することを考えると、市民にも公開していくことを求めます。

これらの状況からも、1年先延ばしが現実的だと考えます。今議会において、この決定をしていただくことで、そこに係る児童、保護者に大きな影響があることはお分かりかと思えます。

請願項目

2026年4月予定、鶴川第三小学校、鶴川第四小学校の統合計画の1年延期を求めます。